

布したものに符合してゐるや否やを審査せしめねばならぬ。もしその行へる所とその云へるものゝ距離が尙百分の六十に及ばなければその去職を命ぜねばならぬ。政府（即ち行政院）の外に於いても善良なる文官制度をもつて之を補助せねばならないことは更に言を待たない。蓋し文官制度にもし力めて改良を圖らなければ各黨は黨員に命じてその領袖の庇護の下に於いて獵官運動に従事し國家の政治は決して軌道を進んで行くことは出来ない。

と、また更らに必要なることは個人の自由を保障すると共に三權分立原則の立脚する我が國憲政を保留すべきである、と云つてゐる。

工業政策と農業政策に關して彼等は國家社會主義の下にあつては次の六原則がなければならぬと規定してゐる。

- (一) 個人の生存の安全をはかり併せてその智能と環境の改進を計るために私有財産を確認する。
- (二) 社會の公共幸福と民族經濟の發展と私人經濟の調濟を謀るために公有財産を確定する。
- (三) 公有と私有とを論ぜず全國經濟は須らく國家の制定せる統一計劃の下に於いて國家と私人に擔任を分別して之を貫徹する。

(四) 國家の計劃によつて私有財産を漸次平衡と普遍に趨かしめ人民に産を得さしめて貧富懸隔の現象をなからしめる。

(五) 國家は増産の能率を増加して國防作用あらしめるために公道を原則とする和平方法をもつて私人の生産或ひはその餘剰を移轉吸収し以て民族資本の擴充をなすを得る。

(六) 民族經濟の世界經濟上に於ける平等の地位取得を謀り、之を補助し世界經濟問題の解決を促進する。

(甲) 工業方面の主要問題に關しては、即ち(一)私有財産の存廢問題、(二)大工業の社會所有問題或は大工業の國家統制問題の二つがあるが彼等は私有財産は社會主義實現の後に於いても舊來の如く存在する、と主張する以外に一國內の生産事業の經營には次の如き種々の方式があると規定してゐる。

- (一) 經營主體
 - 1、私人經營——單獨又は公司
 - 2、合作社
 - 3、地方團體

- 4、私人企業は國家の監督の下に立つ
- 5、國家

(二) 財産

- 1 各個人の私産
- 2、法人團體の公産
- 3、國家の公産

(三) 利益分配

- 1、工人は株主を兼ねて配當を分享する
- 2、私人の大企業中に於いて得た所の利益は國家の制限を受ける
- 3、國營事業の利益は全社會の共有するところとする

(乙) 農業方面に關する主要問題について、即ち彼等は

そもく土地は國の有するものであるか、私の有するものであるか？ ソ聯は共產革命を實行してから先づ農民各自の富農の土地奪取を許した。然して法律上に於いて一切の土地は國有に屬するものと宣布したのであるが事實上に於いてはソ聯農民は乃ちその田地を賣ることが出來、そ

の出賣者は所有權と名付けずして使用權と云つてゐる。ソ聯農民の集團農場に参加するものは各人の所持する大地を持ち、その退去に際しては乃ちこれに相當する代價を得てゐるのであつて、それは出賣に外ならない。亦使用權の名は所有權の名と差異がなく、これはその名調を變更したものに過ぎなく、實際の所有權が取消されたのではない。故に吾人の主張するところは土地國有や土地の私有でなく、國家が全面的な整理權、支配權、公用徵收權を持つことである。國家が土地支配權を握つて土地を分配する時は次の二つが標準とならねばならない。

(一) 小作農を變じて自作農とする。これを逆に云へば、坐食する階級たる地主階級を廢除する。

(二) 各人の所有する土地は須らく實際に自己が耕種するものを以つて限度とする。

邊省の未開墾地はソ聯の集團農場或ひは國營農場の制度を參酌すべきである。土地の耕種權と農業の經營とは別個なものであつて土地は私有の儘であるが然し經營法は合作制である。但し中國の農業問題は分配のみならず、種子の改良、副業の改良、水利の改良等々、皆これその根本に關することであつて忽視することは出來ないものである。

と云ひ、この外更らに緊急なる問題として農業金融をあげる。

近年來全國の金融は大都市に集中し、稍資産ある者は皆租界の庇護に蔭れるため内地の金融は枯渴し農民は自活し得なくなつてゐる。

かくその情況を述べ、この矯正には歸郷運動が必要だとしてゐる。

- (一) 國家は全國の土地にして支配權、整理權及び公用徵收權を持つ。
- (二) 農業區は務めてよく工業區と聯合せしめ、農人に工人を兼ね得るやうにする。
- (三) 耕作單位を規定する。
- (四) 法律と公道によつて小作農を變じて自作農となし、また公道と和平方法をもつて工農の差を除く。

(五) 普遍的に農業貸付銀行を設立し並びに農業合作者の建立を補助獎勵する。

(六) 大いに農業に關係ある水利を興す。

(七) 科學的方法をもつて種子と耕作器具を改良し、また種植の方法及び副業を改良する。

(八) 畜牧と造林を提唱或ひは獎勵する。

文化制度に關しては彼等は思想問題を中心としてゐるが、支那の戰國時代に於ける文化の發達をこれは自由に關するものであるとして、學術の發達と思想の自由とを欲求するためには次の如

き各項が行はねばならぬとしてゐる。

- (一) 大學教育は須らく黨派政治の外に置かれねばならぬ。
- (二) 大學教育は須らく嚴格なる保障を享受せねばならぬ。
- (三) 言論出版の自由、政府が誠をもつて公を奉じ、法を守つたならば人民の批評を懼れることはない。人民は事を行ふ機會があつても故意に漫罵或ひは無責任な言論は行ふものではない。これは皆政府平日の養成如何によるものであつて壓制によつて效を奏するものではない。

教育に關しては彼等は現在の教育に大きな弊害が二つあると稱し、その一は四億民衆中大多數は未教育であり、二つは教育を受けたものが教育することを好まないことである、と、云つてゐる。然してこれが對策として、教育を普及することを當面の急務とし年月を限つてこれを速かに進行することである、即ち正式の義務教育を實行し得なければ須らく鄉村に試験的に國民教育或ひは千字教育を施行し、二三年の内に全國に文盲を一掃し、人々をしてことごとく智識を持たしめ、而して賣國漢奸たらしめないやうにせねばならぬ、と云ひ、同時に、大學の地位は須らく黨派政治の外に超然たらしめ、専ら學術上研究の責任を負ふやうにせねばならぬ。中學に於いては研究して方針を改良するのみならず、先づ中學教師に嚴重な選考を加へねばならぬ、と、その理

由として、中學教師資格の地位を引上げるとは中學生徒の程度を引あげることとなるからであると云ひ全國教育の普遍のためには次の三個の標準が必要であると云つてゐる。

第一には生産能力の普遍化であつて、全國中學小學及び専門學校は須らくその所在地の産業と聯絡をとり、その所有する學生は教室で學科を學ぶ以外に生産の練習に従事し卒業後の生産技能を養成せねばならぬ。

第二には軍事訓練の普遍化である。全國學生は物質的方面に於いて勞苦に耐へる習慣を養成し強健なる身體を造成すべきである。精神方面に於いては須らく勇敢犠牲を培養して奉公守法の道徳に従せしむべきであり、有事の秋には直ちにこれを集合して以つて干戈を執つて國家のために外敵に抵禦せねばならぬ。

第三は團體生活の普遍化である。數千年來の我國は對外的には交通なく對内的には専ら保身を以つて能事となし來つた。現在我國をかこんで立つ所の英米獨佛日等の諸國々民は平日政治上に於いて國家の大事を聞けば國會を開き或は事を議し或は政府に入つて皆よく共同合作の精神を現してゐる。これは近代國家の最も重要な基礎であり我國人民が初めに養成せねばならぬ所のものである。吾が國人の共同生活は少數の團體すらなく各々意見を闘はし或は小組を養成してゐる。

これは國家の亡を促すものである。今後の共同生活の習慣は或ひは公平なる競争の精神であり或ひは對外有患に於ける舉國一致の精神であつて、吾國公民教育中に先づ培植せねばならぬ所のものである。

これを總じて彼等の教育に關する主張を綜合してみると計劃ある教育といふことであつて、政治、工商教育に必要な人材の養成は一人一黨のために養成するものでなく、その目的は國家立國の大計を貫徹するにあると云つてゐるのである。

最近に於いて彼等はその主張に於いて、中山先生の民族民權民生の三大主義は詞容に於いては異なるが精神に於いては同一である、と稱し、また抗戰建國綱領廿六條に抗戰期間に於いては三民主義の最高原則及び法令に違反しない範圍に於いて言論、出版、集合、結社に對して合法性を與へ充分これを保障する、云々とあるに對して政府の態度は在野黨派の要求する所と合致してゐると發表したのであつた。

彼等領袖間の見解と行動には頗る統一がみられない。例へば張君勵の如きは群衆運動を頗る喜ばず専ら上層の聯絡のみに従事してゐる。諸青來（現在は汪派に轉向し活動してゐる）羅隆基らはこの點に關しては相當重視して居り諸は民治學社、救國會、憲政運動協進會等の領袖となり、羅

は「一二・九」以來華北民衆の行つた救亡運動の領袖となつたことがある。

國社黨の組織構成分子は多方面から集合したものであつて、華北に於ける教授團の一部たる張君勳、羅隆基、梁實秋、張東蓀等があれば北洋政府時代の軍人湯荷銘（汪派に轉向）らの前外交部長羅文幹や上海の有名な黄培、陸鼎揆（汪派に轉向）其他戊戌維新派等種々雑多である。

彼等の領導機關は委員制を採用して居り執行委員中から總務委員八名を選出してゐる。彼等の組織は陝甘等の省を除く外は大體に於いて皆省黨部が組織されてゐる。その中心は江蘇、浙江、安徽、廣東、廣西、四川等であつたが、現在、江蘇、安徽は漸次汪派に吸収されつゝある。全國黨員は約一萬と云はれその勢力は主として教育界のみであつて黨大會等も學校で開催され聽衆は學生ばかりと云つてもよく一般民衆に對しては殆んど影響力はないが然し教育界には或る程度の潜勢力をもつてゐる。

第三章 中國青年黨

中國青年黨は國家主義を信奉する一つの政黨であるが彼等の民衆に對する政治的影響は見るべきものがない。これが結成されたのは遠く民國十五年の大革命以前であつて、フランスに留學した青年團體にその源を發してゐる。當時彼等は「醒獅」なる雜誌を出版し、支那を眠れる獅子に譬へ、眠つてゐる時は各種の小獸に欺凌されるが、一旦目醒めたらそれら子獸は忽ち驚走すると記したため人々はこの一派を醒獅派とも云つた。彼等が結黨した時期は一九二三年であつて狀況の然らしむる所によつてその實際行動は對外的には秘密を守り、一切の主張は中國國家主義青年團の名をもつて發表し、一九二九年の第四次全國代表大會以後に於いて漸く機熟せりとして黨名や宣言を發表し、正式に青年黨の名をもつて民衆と相見へたのであつた。彼等の網羅した分子と云ふのはその大部分が智識人であつて活動人物は左舜生、李璜、陳啓天、余家菊、曾琦、黃欣等

であつた。彼等の信奉する國家主義は、自己民族に對して優越感を持ち他民族を排斥し資本主義社會國家——資本家的權力——の階級性を否認し而して「國家は階級を超越する存在である。これは社會發展の最高段階であり、人類中最高の理想であつて神聖にして犯す可からざるものである」となした。であるから民族運動の時期は既に過去のものであつて現在は最高の有機體を產生する國族時代であるとし、同時に無産階級は壓服利用すべきものであるとなしてゐる。

彼等は如何に民族と國家を見てゐるか、黃欣の言によれば

一般人は民族と國家と云ふ二語をば混用してゐるのみならず且つ民族と種族の二語に對しても區別してゐない。種族なる詞は乃ち人類學上の概念、人類學系動物學科の一科であつて、普通動物學者が動物の體貌の同様なるか異つてゐるかを考察し以て他の動物の何科の何種に屬するものであるかを識別する詞であつて、人類學者は即ち人類の體貌の特徴を考察し——頭形、身長耳鼻、唇の形狀及び皮膚眼球毛髮等の如き——以つてそれが如何なる種族に屬するかを識別するための詞である。これは完全に生物學上に於ける血統遺傳に關するところであつて文化、言語等とは關係なきものである。民族形成の素因は一般的に云へば次の幾つかに外ならない。

一 血統——所謂血統は一個の民族を云ふのではなくしてこれは純一の種族的血統の構成を云

ふのであつて、事實上今日では既に純一の種族なるものはなく、亦純一なる種族をもつて構成する民族もない。いかなる民族でもことごとくこれ多くの同じからざる種族の混合體であつて、一個の種族の結果は總じて多くの民族の中に分派されてゐるのである。種族の純一に相當するものは正に民族の團結を助けることを云ふのである。

二 言語文字——言語文字は思想感情を流通する工具であつて、共同の言語文字は共同の意志と共同の理想をば造成するに足るものである。而してこれによつて民族精神の基礎が鞏固となること云ふことは疑ひを容れない。同一の民族が幾種かの言語文字を使用すると云ふことは屢々見る所であるが、然し如何なる言語文字にも論なく總じてこれは一個の民族を形成する重要な素因である。

三 宗教——一個の民族には信仰の同じからざる宗教があるが、然し共同の宗教信仰は總じて民族團結精神の特殊力量を鼓舞する。歴史上宗教信仰の不同によつて民族の分裂を惹起し或は民族の結合を阻碍した例は乏しくない。

四 風習——風習とは民族性を形造る所の重要な部分であつて、風習が形成された後に於いては容易に變遷するものでなく知らず知らずの内にその薰陶を受けて同化され、一個の民族的特

殊の生活方法を造成するものである。

以上に挙げた所の四項は一般に云つたものであつて、實際的にはこれを除いた以外にも尙地理的な素因がある。即ち地理上に於いて接続し或ひは同様の地理的環境の陶冶を受けた人々は比較的容易に一種の民族文化を形成し易い。歴史的素因は即ち歴史上に於いて共同の創痛或ひは榮光の回憶を持つたものは大いに民族意識の發展に助けを持つものである。

外力的素因は即ち民族を形成する内部的條件が既に具備してゐても民族の自覺意識が尙曖昧である時に、異族の外來壓迫に遇ふならば民族意識の覺醒を促して民族の内部團結を加強することが出来る。従つて上述の民族を形成する諸素因によつてこれを見るならば、これ等各個は民族を形成する絶対不可欠の要素ではなく、一個の素因がなくなるとその他の素因は離れて自足し得るものである。一切の民族はことごとくこれ歴史の發展的產物であつて、許多の或ひは一部の絶対的 necessary ではない所の集團性（共同意識、共同感情、共同願望、民族性等）こそ却つて民族に不可欠の要素なのである。一般的に民族はこの文化の產物である。これを逆に云ふならば文化は人類社會が演化する過程中に於いて自己の必要とするものであり、自然に產生される現象であつて、而して民族の團體性は即ち各種素因の綜合表現である。人群の機構が發展して民族の集團性を表現する

段階に至つて初めて民族と稱すべきである。……

元來民族集團は精神上一つの共同的意識と願望を具有してゐるものであるが然し實際に願望を實現するためにはその組織的段階を提高せねばならない。であるから民族社會中に於いて全民の政治組織が普及しないのみならず、その他經濟、教育、軍事等の組織が只點線形態にあると云ふ、斯くの如き遅緩した機構の社會は當然に共同の行動を生産して以て、その共同の願望を實現することは出来ない。幸に社會はこれを總じて内外の有機的刺戟があるために組織化全體化に向つて進み、速かに現代の國家になり得たのである。故に國家は進化後の民族と云ふことが出来る——故に國家は民族に比して更らに組織化され更らに有機化された全體の確定せる領土内に於いてある。民族が既に國家の段階に進化したならばそれ自身は具體的に國家組織中に融化され、再び獨立して實在するといふことはない。

かくして彼等は、故に愛國はこれ無條件的であり、愛國は自己に對して利益があるか否かを計るものではない、としてゐるのであつてこの觀點は國家社會黨と同様である。

彼等は抗戰の過程中に於いては必ず迎速に、新國族政策を樹立せねばならぬとなしてゐるが、黃欣周は我等は新國族政策に關して必ず次の三つの原則を遵守せねばならぬと云つてゐる。

即ち、

二〇四

一 國族素質の改良——これは即ち普通の所謂優生政策である。その實行方法と云ふのは免稅辦法を用ひて優秀分子の生産を獎勵し、また方法を講じてその經濟地位を提高することに外ならない。戰區から流亡して來た女性が若し母親となつたならば自分は國家は須らく毎日生活費を與へて種族の母親たる神聖なる職務の履行に對して、報酬を與へるべきであると主張するものである。

二 國族成員の増加——自分は人口政策を獎勵すると云ふことは現代國族生存闘争の重要な手段の一つであると考へる、人力は國力中最も重要な一個の原動力であつて、その他の物力資力はことごとく人力によつて生産されるものである。——故に自分は極少數の低能兒及び重大なる遺傳病を持つ劣者を除いた外水平線上の人民に對してはその生育を獎勵せねばならぬと主張するものである。

三 國內各民族の血統上の大混合を促進し以つて大變異の範圍を擴大する。自分は我等は須らくこの民族三次の大遷徙の機會（流亡者には優秀分子が多くある）に乗じて國內各種族の血統的大混合を實行しての國族新たななる原動力を培植せねばならぬと考へるものである。

彼等の抗戰に對する認識について見ると次の如くである。

我等全民の對日的血戰は消極的な抗戰ではなく積極的な征倭である。であるから今次の中日血戰爆發は決して偶然の事件ではなく、これは歴史の演變中に於ける一個の必然的な闘争である。これは單に中日兩民族の生存闘争ではなく、二つの同じからざる世界觀と人生觀の闘争である。歐洲大戰以後（前大戰）日本—この蠻性强烈なる民族は西洋列強の決闘中に於いて漁夫の利を占め自らは世界に永遠の和平なく強權は即ち公理であるとなした。こゝに於いて彼等の理想は武力をもつて世界を征服し而してその所謂大和魂を發揮せんとすることにあつたのである。中國に至つては、我等はこれ丈北悠久の民族であつて西洋に於ける相互慘殺と東隣の威脅について戰爭はこれ萬惡なりとなして世界平和を目標として努力したのである。こゝに於いて我等の理想は和平の精神をもつて世界を團結し、而して燦爛たる中華文化を發揚するにあつたのである。日本は世界を征服するためには先づ中國を征服せねばならぬとなした、かくして倭寇の鐵蹄は空前に我等の境内に踏入したのである。かくして中國は世界の和平を維持するためには先づ野蠻民族の横暴に抵抗せねばならないといふ理由から遂にいかなる強國にも先んじて單獨に日本と作戰したのである。これは眞に歴史的壯舉であり、眞に偉大なる犠牲である。これは眞に我等の祖先に對し、我

等の子孫に對しました、世界の人々に對する神聖なる戦争である。

もし我等の對日作戦が單に領土の保全、生命財産の維護であり、然して最後の勝利が我等のものとなつて後四億五千萬の中華國民が世界上に於いて、廣大なる地盤を占領してゐるに過ぎなく無量の衣食を消耗してゐるのみであつたならば世界文化と人類の幸福といふものはどこにあるのだらうか。且つもし全民族が飽食し終日意を用ひて世界文化に貢獻するところがなかつたならば、それは「民を救つて國を救はざる」所の漢奸理論の下埋みとなるものでしかないのである。

究極するところ我等はいかに對日作戦せねばならないか。我等のなさねばならないものは野蠻なる倭寇を征服して東亞の和平を隱定し世界の共存を保障して中華の文化使命を發揚することである。世界各國が受けた所の中華文化を除き單に直接中華文化の下に於いて養育されたのみでもその子孫人には六億あり。然して我等中國と東方の兄弟國は倭寇の脅威下にあるのである。我等が勝利すれば半分の世界人類が先づ自由となり得るのである、東方の被壓迫民族の解放は我等中華民族が負ふ所の文化使命であり、血戰征倭中に於いて必ず忘れ得ざる所の最大使命である。

征倭戦争の中華使命について我等は明白にこれは神聖なる戦争にして非常に困難なものであることを知つてゐる。この失敗は數量をもつて云ふことは出來ず、この勝利は形體をもつて計るこ

とは出來ないである。だからこそ更に明白なことは、この血戰は必然的に歴史的壯劇であつて、いかにして爆發したものであるかどうかを批評する必要はなく、更らに目前の失敗を咀哭する必要はない。他のことにかこつけて人のことを悪く云つたり、對外對内の意見をもつて人と論争する餘地はないのである。惜しむべきは半年の血戰中から得た教訓によつて我等の國族組織は最高の有機體ではなく然して今次の國族生存闘争に對應する所が少ないことである。喜ぶべきところは傳統的家族主義、新興的個人主義及び諸侯の部落に割據する思想がことごとく時代の狂流によつて崩潰したことである。就中武裝軍民の捨身衛國、血染山河は中華魂を重鑄して再び大中國を造るに足りることである。これは中華國族の新生、光榮ある勝利の基礎となるものである。

中華國族の闘士たる彼等の鮮血によつて既に生を貪り死を怕れる卑劣なる根性は既に洗ひ流され、彼等の精神は既に妥協をもつて安んずる奸徒を征服した。今後は只命を擲つて血戰の大道を展開し最後の勝利の凱歌を爭取するのみである。

中國青年黨の建國問題に關する幾つかの政治原則について黃欣周の云ふ所によれば大要次の如くである。

現在人々はことごとく我等の當面の革命任務は即ち倭寇を打倒して中華民國を一つの現代國家

に造成すべきことであるといふことを認めてゐる。現代國家は即ち全民國、普及した組織ある國家でなければならぬが故に今後政治上に於いて須らく民主憲政の路線を進むべきことは疑ひを容れない所である。我等は深く中國人の政治的精神病の傳統は只民生政治の洗禮を過ぎてのみ初めてよく祓除することが出来ると信するものである。この點に對して吾等は國民黨がよく速かにその實現を促すことを希望するものである。年來の民主の彷彿を其他黨派は常に叫ぶ所の口號としてゐるが實際的には國民黨が中國の民主運動史上に於いて最も光榮ある一頁をもつてゐる。中國の民主憲政運動は疑ひもなく國民黨の歴史使命の一つである。

その次に民主國家となつたならばもはや人民は當然に自由に政黨を組織し自由に政見を發表し自由に活動し中華民國憲法上に於いて合法の地位を取得し得るであらうがこゝに注意すべきことは即ち各黨が中華民國憲法上に於いて合法の地位を取得せねばならぬことである。これについては即ち各黨の「中華民國」の承認を前提とすることは當然のことである。

また現代國家なるものは統一されたものであり、言を換へて云へば一國の領域内に於いては只一個の主權が存在し得るのみであつて、決して二つ以上の主權が同時に併存することは許されないものである。故に主權は即ち有機體たる國家自身の最高意志である。主權は國家組織の中から産

出されたもので、同一領域内に於いて二個以上の主權が並存することを許容することは、即ち國家の統一を破壊することに異ならず、二個の國家組織があり、或ひは封建割據の局面が形成されてゐては、それは根本的に現代國家とは云へないのである。近代國家には黨派は多いが只共同して一個の主權の仲裁の下に立つべきであり、國家の統一に害なきものでなければならぬ。この種の觀點を根據とすれば我等は少くとも目前の全國軍隊は須らく一律に改編して國防軍となさるべきであつて絶対に國家に屬し、いかなる私的集團に屬するものであつてもならない。同時に政治上の區域は整個の行政系統から外れることは出来ない。これは現代國家を建設する最も基礎的條件である。

彼等は今後の經濟建設運動について次の如き見解をもつてゐる。

一 國防に關する重工業及びそれに密接なる關係を有する工業は必らず完全に國家が傳貢創辦し國家自身が經營せねばならぬ。かくの如く工業の重心を國家の手中に握るならば近代西洋の私人資本主義の流弊は即ち完全に矯正し難いものではないのである。近來やゝ右傾した左派は中國今日の革命任務は乃ち外來侵略の抵抗資本主義の發達にあつて一時の心理的反動は免れ得ないとなしてゐる。現在國內の如何なる黨派も一致して集團主義を主張し、個人主義に反對しないもの

はない。即ち國家統制經濟政策が必然的に個人資本主義と代替することは疑ひない所である。

二 輕工業が私人によつて自由創設されることを妨げない。然しその經營は必ず整個の計劃により且つ國家の監督すべきであつて、企業管理權の集中は戰時に於いては絶對必要である。

三 法幣政策は提存制限、匯兌統制及び外匯購買申請規定等が規定されてから、その基礎は相當鞏固となり、これによつて對外貿易は既に完全に國家統制の下にあるが然し國內奸商によつて高物價市場壟斷は依然として層見疊出してゐる。故に物價調整の制度は速かに實施される必要がある。

四 抗戰以來政府財源の三大來源——既に關稅、鹽稅、統稅の大部分は斷絶し、第一次五億の救國公債また久しくかゝつて初めて募集し得、而して且つ一般貧汚分子は農民に向つて大々的に出力を強要し、眞に出錢すべき人は反つて世界に逍遙してゐる。これは實に不公平である。今後戰費調達には低幣の増發を除いて民間の金銀を集中し、外債を募集する等の外、賦稅に對しては須らく所得稅率を増加すると同時に財産稅遺產稅と戰時特別所得稅等の新稅制を創辦し、以つて出力者の負擔を減輕せねばならぬ。内債の募集に至つては最もよく官僚資本家地主と富商、富豪の割當を實行し以つて「有錢出錢」の主旨に合致せねばならぬ。

以上の四項の外尙附帶的な一點がある。即ち今後の經濟建設過程中に於いて我等は須らく前を徵し後を慎み充分に専門家の指導を信任し官僚政客の過間を嚴禁して建設の前途を廣め廿餘年來の轍を踏んではならぬ。同時に民衆と輿論の監督はまた非常に重要であつてこれを輕視してはならぬ、只民主政治の擡頭以後に於いてのみ初めて理想の建設が完成することが出来るのである」

教育の問題に關して彼等の方針を陳啓天からきいてみよう。

(一) 總方針は二つある。

A 民族精神の發揚

- 1、外に對しては民族鬪爭精神を培養し以つてよく國家民族のために個人を犠牲とする。
- 2、内に對しては國民の協作精神を培養して全國民を融合して整個の集團となす。

B 現代國家の建設

- 1、外に對しては國家の獨立を求め
 - 2、内に對しては國家の統一を求め
- 〔國家の一切の現代化を建設す〕

(二) 目標は五つある。

A 國防教育

- 1、國防中心思想の注入
- 2、普遍的に軍事教育を実施する
- 3、各種の課程を發揮して學術を國防に巧用する

B 節義教育

- 1、國民の國家民族に對する節義精神——殉國を培養する。
- 2、國民の公家職中に對する節義精神——殉職を培養する。

C 法治教育

- 1、法律は神聖にして侵犯すべからず。
- 2、法律の前には一律に平等である。
- 3、名實相隨はしめ賞罰を明らかとする。

D 生産教育

- 1、教育を生産化する。
- 2、生産を工業化する。
- 3、工業を國防化する。

E 科學教育

- 1、科學常識を普及する。
- 2、科學の學術研究を提高する。
- 3、科學方法に依據することを獎勵し以て中國固有の一切資料を研究する。
- 4、科學を應用する中國の一切の新たな建設を獎勵する。

國際關係について彼等は「我等は一國外交の出發點はことごとくそれ自身の充不充、利不利を根據として居り絶対にいかなる情誼情感がないといふことを知つてゐる。故に従來から色眼鏡を以つてみることを願はないのである。今日一種の想像をなすと云ふことは明日またそのやうな一種の期待をなすこととなる。であるから本年奢望を持たなければ失望するところはないのである」と云つてゐる。

彼等は言論の範圍について次の如くあらねばならぬと主張してゐる。

- 一 吾人らが團結統一を維護する決心ならば凡そ團結統一に違反する言論と行動に對しては吾人は極力これを矯正せねばならぬ。
- 二 吾人らが政府を擁護する決心ならば政府の措置が當を得てゐない時は吾人は亦正誼を惜し

まずこれを督責せねばならぬ。

三 抗戦九ヶ月間一として人民を代表にするに足る機關が無いことを我等は正しからざるものと考へる。吾人は正に力を盡して正式の民意機關の實生を促成すべきである。

四 吾人は青年が抗戦中に於いては正當なる道を歩むべきことを指出せねばならぬ。然し吾人は斷じて單獨に一黨一派に有利ないかなる宣傳煽動をも行ふものではない。

五 敵人の一切の陰謀に對し、吾人は信すべき資料によつて審慎と考慮し隨時暴露を行ふべきである。

六 一切の祖國を賣る奸漢國賊らに對しては我等は將に嚴肅なる精神をもつて大いに聲討し、以て姑息してはならぬ。

七 國際の變幻に對して吾人は將に國家主義者の常態をもつて客觀的事實を根據とし、友と敵とを分別し眞實を説明して決して政見を先じてはならぬ。

これを總じて吾人は打倒敵人を第一として國家の利益は一切より高しとなすものであり、凡そ一黨一派の利益によつては吾等はすべてこれを頗る軽く見てゐるものである。凡そ國家の利益に違反するいかなる言論や行動がもし發生したならば我等は全力を盡してこれを撲滅せんとするの

である。

中國青年黨が國家主義青年黨と云ふ名稱の下にあつたのは約十五年間である。彼等の基本的なスローガンは、内に國賊を除き、外に強權に抗す、また、撲滅共匪、であつたが、救亡運動が展開されるやうになつてからは自然に放棄されてしまつた。彼等の活動は上層階級就中各地の地方軍人を目標としてなされ、下層民に對しては殆んどいかなる活動もなされてゐなかつた。

彼等の政論機關誌としては「國論」「中國青年」等があり、現在では「國光」があり機關紙としては「新中國月報」がある。

現在活動しつゝある人約には左舜生、曾琦、李璜、陳啓天、余家菊、黃欣周、左幹臣らがありその内左舜生、李黃、曾琦、余家菊、陳啓天らは皆國民參政員に就任してゐる。

彼等は國民黨が臨時全國代表大會を開催したるを契機として、その後蔣介石宛書翰を送つて大いにこれを歓迎するとなしたが、その内に於いて

中山先生畢生奮闘の目的中の一つには中華民國自由平等の手段がある。今次國民黨が全國を領導して抗戦することは即ちこの遺教精神の具體的發揮である。また他の一つには建國は必ず憲政に歸すとある。また他の一つには建國は必ず憲政に歸すとある。今次國民黨臨時大會がこの非常

時期に於いて國民参政機關の建立を忘れなかつたのは國民の言論、出版、集會、結社の自由を保障しないものであり、他日憲政を實施する端緒を開いたものである。

と云ひ、また夙に昔より主張せる國家主義民主政治に適々符合するは深甚に敬佩するところであり、國民政府は今日舉國して認むる所の政府でありまた抗戰唯一の中心力量である。と大いに國民黨に迎合した。

尙一般では現代中國の七君子の一人と云はれた王造寺もこの中の活動分子であると思つてゐるが、王造寺は私人として彼等に接近し、またその見解についても幾多類似した點も見受けられるのであるが然し彼は未だこの組織には參加してゐない。且つ王造寺は政治的な組織をもつてゐる。この小組織内に於いては王造寺の外、彭文應、潘大達、許鵬飛、汪馥炎らが中心となつてゐる。これらの人物は盡く上海に於ける各大學教授であつた。

第四章 全國救國聯合會

全國救國聯合會は彼等の主張に據れば、いかなる政黨組織でもなく、またその名の示すごとくいかなる派別的活動をもなすものではない、と云はれてゐる。これについて彼等は次の如く聲明してゐる。——いかなる政治的野心もなくまた政權を爭奪する企圖も持つてゐないものであり、一部人民救亡を天職とするに過ぎないのであつて、只一個の統一せる抗敵政權を促成せんとしてゐるのみである。云々。

救國會が組織されたのは冀東政權と冀察政務委員會が成立した當時であつて、その動機となつたものは一九三五年の所謂一二・九と一二・一六の華北學生の示威運動によつて抗日意識を刺戟された民衆學生らが活動したことにあるのであつてこれによつて漸く上海に於いて文化救國會、始女界救國會、國難教育社等が生れ、またこれらが翌一九三六年五月卅日に至つて聯合し、これを

全國救國聯合會と名付けたのであつた。

この成立大會は上海で開催されたが大會で彼等は各黨各派の過去の誤謬を公開的に批評し、又彼等の救國戦線の過去に於ける誤謬を自己批判した後、次の如く全支民衆に訴へたのであつた。その目的は錯誤を糾正して再び將來に於いて演ぜざらしめんとするにあり、然してこれは如何なる勢力を攻撃するものでもなく、いかなる勢力をも推翻せんとするものにあらず……漢奸勢力を除いた外は國內に於ける如何なる勢力も再び相互に衝突して一絲一毫と雖も損失あるが如きはこれを見るに忍びず、彼等をしてよく維護し統一し鞏固して日本帝國主義の巨力に反抗なさしめねばならぬ。

現代的國家の意義の下に於ける中央政府たるものは正に只政權統一の權利のみを圖謀し、而して政權統一の義務——主要なるものは國防の任務——を忽略にしてはならぬ。地方政府は須らく只平時に於ける大地の報酬と人民の汗血のみを坐享して而して時に臨んで領土と人民の生命財産を保護する義務を負はないやうなことがあつてはならぬ。

敵寇侵入の時期に於いて地方政府が須らく侵略に抵抗せねばならぬことは正式の宣戦と否にかゝはるものでないことを認定せねばならぬ。然して敵が來つた時抵抗することは天地に恥ぢざ

る當然の守土の責任であることを認定せねばならぬ。然して命を中央にきき、苟も一時の安を貧るが如き粉飾をなすことは出來ないのである。中央政府はかゝる時に於いては更らに須らく用意を全局に通じ區域を分たず全國を動員して敵に當り決してかこつけて地方事件として自分のことではないとすることは出來ない。中央政府は明かに國防の任務を忽略にした。就中、地方の抗敵戰士が英勇犠牲した後中央の親日派官僚はこれについて「親善」「妥洽」の主張を提出して彼等の巧績を打消した。それは人民を痛心疾首せしむるのみならず且つ死難の將をして悵を九泉に飲ましむるものである。云々。

かくてスローガンとして

- 一、舉國の戦の決心を發動して華北事件に應付せよ。
 - 二、直ちに對日經濟絶交を發動して根本から密輸を消滅すると同時に抗心の決心を表示せよ。
- が主張されたのち彼等は、

目下國內の各黨各派を事實上短期間に於いて輕易に消滅することは出來ない。一・二八事件以後中央當局は曾つて六ヶ月以内に共產黨を消滅すると表示した。その結果はどうであるか。歴時四年有餘、双方數十萬の抗日すべき戰士と無數の銃彈を犠牲として現在も尙依然として相特の

疆局にあり、而して整個の民族は却つて無をもつて抗敵するの苦境に陥つてゐる。この事實は國內實力派の鬭争が徒らに敵人の侵略に便ならしめてゐることを證明してゐるのである。いかなる實力派もその全力を用ひて他の實力派を消滅せんとすることがもし成功したならば即ちその結果は自身の實力消耗によつて日本帝國主義の俘虜とならねばならないのである。

各實力派は少くとも行動上に於いて若干の錯誤を犯してゐる。この種の錯誤は只誠をもつて合作し一致抗敵する行動中に於いてのみよく自然に糾正し得るのである。

政治領導權が誰に屬するかは平時に於いて誰がよく人民の要求に適用し得るかにあり、目下に於いては誰がよく切實に抗日戰爭を領導し得るかによつて見られるのである。當面の大敵を放棄し、敵人に對して無限の讓歩をなし、而して武力を用ひて敵黨敵派を征服し權威を用ひて他を排除し、權術を用ひて政權を固めんと考へるその結果は反つて只人心を離散し而して自己を滅亡に陥しめるものである。

經濟力量と武裝力量に於いて中量はことごとく高度の優勢を占め、同時に政治上に於いて中央は最も重大なる責任を負つてゐるが故に自然に人民の最も嚴格なる批評と最も切迫した希望を受けねばならないのである。

中央既往の錯誤は政治上に於いては民族革命の任務を放棄して其武力によつて全國を征服せんと企圖したことである。中央目前の錯誤は、外に對しては民族共同の大敵を放棄し、而して内に對しては己と異なるものを消滅して國防力量をして弧注一擲せしめんとしてゐることである。

整個民族が考へることは再び如何なる力量も内部の衝突中に於いて消耗するを見るに忍びないのであり就中央の誤れる政策の下に於いて高度の優勢なる實力が消耗することを願はないことである。たゞ中央がよく頗る過去の錯誤を糾正し、よく頗る重ねて新たなる民族革命の任務を負つて起つてのみ、就中よく頗る切實に抗日戰爭を領導して立ち彼等の軍事、政治上の領導地位を顧慮しないことによつてのみ、只かくしてのみ初めてよく頗る自然にその領導地位を取得し得るであらう。云々。

と黨派を分たず抗日のために一切の力量を聯合せんと主張したのである。

全國救國聯合會が成立に當つての各黨各派に對して行つた建議の大意は左の如くであつた。

- 一、各黨各派は直ちに軍事衝突を停止すること
- 二、各黨各派は直ちに政治犯を釋放すること
- 三、各黨各派は直ちに正式代表を派遣して人民戰線結成のために談判を進行し以つて共同抗敵

綱領を制定して一個の統一的抗敵政權を建立すること

四、人民救國戦線を願ふ全部の力量をもつて各黨各派の共同抗敵綱領に對する忠實なる履行を保證すること

五、人民救國戦線を願ふ全部の力量をもつていかなる黨派の共同抗敵綱領に對するもまた種々一切の抗敵力量を削弱する行動をも制裁すること

以上全國救國聯合會の成立動機と彼等の主張をその儘述べてみたが、事實上に於いてこの組織に包含される分子は中國々民黨、中國共產黨、國社黨、民族革命同盟、第三黨、等凡そあらゆる黨派を含んでゐるに拘らず、各救國會に吸収された階層はその成立が支那隨一の大都市たる上海であると云ふばかりでなく、その反封建的な所謂進歩的な分子を糾合した政治闘争を中心目標としたものであつたが爲に革命的都市労働者、學生、インテリゲンツィヤがその大部分であり、然も人民救國陣線は一九三五年の中央の所謂八・一宣言を基礎として中國は初めて誕生したものであるから、その活動は殆んど政策轉換後の中央の線に沿つてなされたのであつた。

従つてこの組織に對する國民黨政府の風向ひは頗る悪く遂に全國的な彈壓となつてその首腦者たる「七君主」が捕はれるに及んでこの組織は合法的分野を奪はれて地下運動を行ふやうになつ

た。次いで日支事變が勃發するやこの組織は名義上に於いては解消したのであるが、然し各界救國會はその儘各種抗敵後援會を組織し或ひは吸収されて所謂人民陣線運動から擴大して民族統一戦線運動を行ふやうになり全國抗敵救亡總會を組織したのであつた。

當時の首腦者所謂七君子たる沈鈞儒、鄒韜奮、王造時、史良等は國民參政會が設立されるに及んでその參政會員となつた。

第五章 中華民族革命同盟

民族革命同盟成立のそも／＼の源は王禮錫等が組織したA・B團（反ボルシェヴィキ）に發してゐる。A・B團は陳銘樞等十九路軍の中心人物を加へて社會民主黨となつたが福建人民政府が組織されてから第三黨左派の國家主義と生産人民黨を組織した。民族革命同盟が組織されたのはこの生産黨の分裂によるのである。

民族革命同盟の最高指導人物は李濟深、陳銘樞、蔡廷楷、等であつて、この下に組織、宣傳、軍事、民運、總務、海外、不管（無任所）の七科が設けられてゐる。

彼等は民族革命同盟は政黨ではなく、唯抗日を主張してゐる分子が結合してゐるものであると聲名してゐるが日支事變勃發以前に於いては抗日、反ソ的態度を持し、特に西安事變に當つては和平解決に賛成せずして中央打つべしの態度を採つてゐたのであつたが、遂に對日抗戰が事變勃

發によつて全國的主張となるや、抗日の要求は既に到達せりと叫んで抗戰參加を決すると共に民族革命同盟を解散したのであつた。解散後彼等は、更らに宣言を發表して次の如く述べてゐる。

中華民族革命同盟成立目的の一端は全民族力量の集中を促進して日本に對して抗戰し、以て中國をして獨立自由平等に到達せしめるにあつた。蘆溝橋及び上海事變發生後、全國は蔣委員長指導下にあつて毅然として神聖なる自衛戰爭をなし、我民族は既に空前未だ曾つてなき所の統一をなした。この偉大なる民族戰爭が逐次展開されてゐる時、吾人は公誠の態度をもつて共に民族統一の鞏固を求め全民抗戰の成巧を促進せんとして八月に於いては宣言を發表して國內外盟員及び全國同胞に對して全體を動員し各々その力を盡して政府を擁護し抗戰到底せんことを號召したのである。また十月廿五日には最高會議の議決を経て正式に中華民族革命同盟の組織を解散した。吾人のこの種の光明なる表示は全民族團結の信念を増強するものであり、また我が海内外の同盟組織が一律に結束して所有する力量を自ら政府に貢獻し、抗戰に力を致し、以て吾人の素志を貫徹せんとするに足るものであると信ずるものである。全體盟員に望む所は今後各身は奮勵して歴年の抗戰決心をもつてし、また政府に望む所はこの存亡一髮の秋に於いて積極的に全國民衆を動員して共々この神聖なる民族戰爭に赴き、もつて最後の勝利を爭取して民族解放の使命を完成し

民有民治民享の國家を實現せんことである。謹んでこゝに宣言す。

二二六

かくの如くして民族革命同盟なるものは名目上解散したのであるが然しこの組織を構成した分子の大部分は十九路軍であり、然も十九路軍は独自の歴史を持った軍隊であつてその結合性から見ればその各自の如何を問はず一種の政治派別であり民族革命同盟としての實體が失はれたとは云へないのである。この政治派別の代表的人物たる陳銘樞將軍の言論で代表的なものは鞏固統一抗戰到底である。その内容を拾つてみると次の如きものがある。

反日武力侵略の民族戦争は發動以來既に半年を過ぎた。この半年の抗戰過程の苦しき經驗は吾人に深刻なる認識を與へるものである。即ち我等は直ちに抗戰到底してこそ始めてよく民族の生存を爭取し得るのであり我等が鞏固統一に努力してこそ始めてよく抗戰到底し得るのである。

幾ヶ月の抗戰中に於いて我等は廣大なる土地を失ひ、北平、天津、上海、首都南京等文化政治經濟の中心はことごとく相繼いで敵人の手中に淪落した。然し我等は決して勇氣を消失してはならない。もとより我等の國權は帝國主義の蹂躪を受けた國家であり、産業落後の國家であり且つ敵人に幾週間かの内に全部を征服すると豫想計畫されてゐる國家である。我等はかゝる國力をもつてゐるのであつて、この一つの高度に發達した資本主義強敵が發動する所の強烈なる侵略戦争

に對應し敵人をして豫想外の長期間内に於いて、豫想外の莫大なる代價を拂はしめていささかの勝利を得た。これは我等が勇氣を失つてはならないのみならず且つ反つて愈よ益々振奮せねばならない要因である。

戦争はこれ一大實驗であり同時にこれ一大批判であるに過ぎない。過古數ヶ月の戦争經驗が我等に深く感ぜしめたものを證據とすれば、對日戦争は誠に國內多年の分裂現象を統一した。然しこれらの統一がもし一步の團結に進み、一步の鞏固に進んだならば則ち内政外交諸種の國策上に於いては合理的となり統制ある歩調があり従つて更らに賢實なる抗戰力量が現出すべきである。既往は咎めず將來は追ふべきである。この危亡緊迫の關頭に於いて我等全國朝野上下の人士は須らく自らを戒め抗戰到底の大目標の下に於いて統一を鞏固とせねばならぬ、而して誠を以つて領首を擁護し個人の小さき利害と打算、意見の相違を排除することは則ち統一を鞏固とする基本條件である。目前の狀勢をもつて論ずれば、抗戰の最高領袖たる蔣委員長の擁戴に關しては既に國を舉げて朝野人士が一致して激らざる信念を堅守してゐる。但し朝野人士間舊來の諸黨派關係に於いては乃ち不必要なる疑忌と磨擦がある。疑忌と磨擦は抗戰力量を減少するものである。予は全國智能有爲の士に對して希望するかゝる。方面に於いて個人の精力を浪費することはなすべき

ことだけでなく民族の前途を誤るものであるから直ちに消滅せしめることである。予は終始これをもつて自らを勵まし自ら勉め、終始朝野間各黨各派間の阻隔を除かんと企圖してゐる。而して全國一致して危亡の挽救を造成することは民族を復興するものであると深く信ずるものである。かくて精神の團結と統一の鞏固とはこれは抽象的な空言ではなく當面に於ける抗戰の許多の重要緊迫した問題である。従つて大所高所から見た合理的な有効的解決をなすためには次の如きものが必要である。例へば

第一政治機構の問題について云ふならば……抗戰の必要のためには既成の政治體制に對しては當然に方法を設けてその充實と調整を求めねばならぬ。然してこの種の充實せる調整の施行はことごとく抗戰活動の推進に便利なることを原則となすべきであつて、戦時の急需を顧みざる成見や、戦時の機會を利用して攘竊を企圖するが如きことは同様に政治機構の調整を阻害するものである。もしこの種の個人的利害關係の打算を打ち捨てたならばその政治機構を如何に調整し、いかなる限度に民主化しいかなる計劃を採用して改革するかと云ふが如き問題は合理的に解決し得るのである。

第二 外交問題について云へば……目前許多の人々は外交上の問題に對して皆いささか悲觀的

な疑慮を持つてゐる。例へば我等は眞に英米佛などの間に與する國を求め得られるであらうか。某々國家は出兵して我等を扶助することを恐れてゐるのではないか。日本に對して何故大使を撤回しないか。等々これらの疑慮は實際に事實を反映してゐるものである。然しそれらの事實を形成するものは却つて統一が鞏固でなく、意志が融合しないから外交計畫上に於ける明確ならざる表現と模糊たる觀念が顯出せざるを得なくなるのである。然し今日に於いては全國上下は既に我等の眞の友人或ひは與する日を確定した。

第三 民衆運動に就いて云ふならば……抗戰幾ヶ月中に感じた所の最大缺陷は即ち我等が人口上に於いて敵人に對して優越してゐると云ふことを利用せず、我等が民衆の力量と軍事力量とを配合して起たないことである。我等はかゝる一種の産業落後の國家——産業は落後してゐるが然し廣大なる國土と民衆を有する國家である……が強敵と戰爭するには當然敵人の優點を固避し自己の長處を發揮すべきである。我等が落後の經濟組織に藉口して廣大なる民衆を動員出来なかつたならば、勢ひ政治的、社會的、軍事的力量を借りずしては民衆を組織して起つことは出来なくなる。然して幾ヶ月來民衆組織の呼び聲は至る所普遍し、その需求は抗戰の加緊に隨つて日に増大してゐるが實際の民衆運動は只局部的若干の戦區に於いて實行されてゐるのみである。この原因

は乃ち團結の意志が融合せず統一が鞏固でなく民衆運動の發動上に許多の不必要なる顧忌を惹起してゐるからである。然し當面の緊急情形は既に我等の猜疑膽顧を許さない。我等朝野にある人は直ちに一大決心をもつて地盤主義を破除し、切實ならざる形員主義を破除し、口ばかりの口號を破除し、全國民衆動員總綱領の下に於いて真正の全民抗戰の局面を製成して以て當面の頽勢を挽回せねばならぬ。

この他後方を安定する傷兵問題、難民問題等々の如きは前述三大問題と特に息々相通する所の聯關がある。然しこれらの問題は目前非常に緊迫してはゐるが大體技術的な問題である。原則的問題、即ち政治機構問題、民衆運動問題の如きはよく成見を破除し、私の利害に關する論争を破除し、公忠體國の精神をもつて、國の爲に忍ぶ所の精神をもつて、大處高所からの考察に従ふならば國策の明決確定と民族一致の支持は求得し得るのである。即ち實際上の狀勢中から統一を鞏固とすることが出来るのであつて同時にこれは即ち最も有效な方法であり最も公大無私の態度をもつて民族戰爭を推進するものである。

以上を總じて當面抗戰到底の先決條件は多くの方面に於いて統一の鞏固をなすべき事である。

第六章 トロツキー派

支那のトロツキー派とは陳獨秀の下に育成した取消派を指して云つたものであつて、彼等は中國共產主義同盟(ボルシェビキ・レーニン反對派)と自稱してゐる。この派はトロツキーの指導下にある所謂第四インターナショナルの支那に於ける支部である。取茲に消派とは一九〇五年のロシア革命失敗後革命集團中に「革命は失敗した。革命の波の高揚が沈靜した時期に於ける社會民主黨の任務は即ち議會運動を發動し、國會の議席を爭奪すべきであつて、若し社會民主黨が國會中でよく三分の二の議席を獲得したならば革命は血を流さずに成功するであらうから、一切の秘密工作は完全に解消すべきである。斯くの如き秘密工作は革命的波の低潮期には不適宜である」とした所からこの一派を支那では取消派と呼ぶやうになつたのである。従つてこれを同じやうな中國共產黨内に於ける斯くの如き思想を持つた陳獨秀の一派を矢張り取消派と呼んでゐるのであ

る。

トロツキー派が支那に流入したのはモスコに於いてトロツキーの洗禮を受けた支那の左翼分子が歸國してからのことであつて、彼等はトロツキーの主張を信奉して「我們的話」「十月」「火花」等の機關紙を發行して活動した。此の分子が丁度歸國した當時は恰もよし中國共產黨の生みの親とも云はるべき陳獨秀が支那大革命時代に犯した機會主義のために黨を除名され、彭述之らと共に無産者社を組織して機關紙「無産者」を出版してゐたのでこの歸國分子はこれと合流し、トロツキー主義研究委員會を組織して中國共產黨左派反對派を形成したのであつた。當時の中央責任者は陳獨秀、彭述之、劉仁靜、馬玉夫らであつたが、この下に吸収された分子の約半數は中央から排除された分子で、その活動範圍は主として學問内であつた。

彼らは支那大革命の失敗した所以は中國共產黨が聯合した結果であるとなし、中共は國民黨が清黨を實行しない以前に於いて土地革命を實行してソヴェート政權を樹立すべきであつたとしたのであつた。また他の一面に於いて彼等は中國の資産階級政權が安定したのは資本主義の發展の可能性があるからである。とした。

トロツキー派は機關誌「闘争」に於いて政治決議を發表したが、これによれば彼等は一切の帝

國主義に反對すると同時に支那に於ける地主資産家階級と富農中農に反對することを主張してゐる。彼等は革命的なものを工人と貧農とし、その他の社會層を盡く革命の對象とし、

眞によく日本帝國主義に反對し得るものは只工農兵士及び下層小資産階級等勞苦の大衆であり中國の地主は大小を論ぜず、彼等は當然に日本帝國主義に反對することはないのである。中國の資産階級は其の政治的經濟的地位よりして帝國主義に反對することは不可能であり、就中最も急進的な日本帝國主義に反抗することは出来ない。故に日本帝國主義に反對するためには一切の帝國主義を打倒する所の任務とこれを同一視せねばならないのみならず、且つ抗日闘争の戦利を得るためには必ず資産階級、國民黨及び軍閥的政權を打倒すべきであると云つてゐる。

彼等の抗戰理論を概略してみれば

一、軍事動員の根本任務

1、城市の保護と争奪を重視する……城市はこれ中國の心臓「穴道」であり、これは中國の寶と保壘であり、一切の作戦行動は必ず城市を最も重要な争奪の對象となし城市を保衛し城市を奪回することを主要任務とせねばならぬ。

2、最大の救國力量たる民衆を速かに組織する……：城市争奪の重要なことは中國各種人民の救國作用に顯出して居り、勞工は最も大なる救國力量を顯出してゐる。勞工は城市の天然守衛者である。故にレーニンが曾つて採用した政策即ち勞工をもつて農民を領導する政策を採用して民衆を組織せねばならぬ。

3、全國皆兵制と正規軍の配置……：現在の壯丁を「抽調」する方法を擴大して全國皆兵とする。即ち十分の一の人口の壯丁軍隊（約四千萬）と十分の一の戦時勤務隊、婦女救護隊、少年先鋒隊（約四千萬）を組織する。此の四千萬軍隊中の十分の四或ひは五は地方的な民軍とし十分の五或は六は召集に輕便な正規軍とせねばならぬ。

4、遊撃戦の城市化……：遊撃戦の問題に關しては我等は只二つの方面即ち城市を遊撃化し遊撃戦を城市化せねばならぬ。

二、一切の經濟力量をいかにすれば總動員し得るか

1、累進所得税と財産税を實行する……：強制的に累進する所得税と財産税を實行することによつて中國の財政は初めて充實し得る。中國の上海、天津を除いた外の全國金融業工商業等の公司財産は實業部の統計によれば約六十億元あり、上海の外國銀行に於ける中國の財産は一般人の

統計によれば約六十億から百億元前後に達する。これを百分の二、三十徴收すれば我等は即ち三十億元の抗日經費を持つことが出来る。

中國々民の収入は大約二百億元あるが假りに百分の十或ひは二十を徴收すれば即ち三十億元を持つことが出来る。

いかにすれば累進税を實施し得るか、即ち財政の民主化と生産の民主化を實行すべきである。たゞ國民大會——大多數人民の決定と監督——によつてのみ累進税は初めて徹底的執行に成功し、財政の收支は切實に分配公佈され而して痛心すべき浪費或ひは公金消費は除かれ得るのである。

2、帝國主義の在華特權と財産を回收する……：中國の主要力量は外人の手中に操られてゐる。我等はこれ等の權利を回收しなかつたならば主要なる資本技術を用ひて抗日救國することは出来ない。故に先づ一切の帝國主義を打倒してこそ抗日を談じ得るのである。

3、「藉者有其田」と八時間労働制……：須らく強制方法をもつて地權を平均すべきである。

三、一切の政治力量をいかに動員するか

1、民衆組織と自由

2、民衆大會の即時召集

四、外交の處理方針

- 1、日、伊等に對して直ちに絶交を宣佈する。
 - 2、ソ聯に向つて直ちに反帝國主義の攻守同盟を成立する。
 - 3、一切の國際労働團體（第二、三、四インターナショナル等）に向つて直ちに反ファシスト、反世界帝國主義大戰の聯合戦線を進行し併せて彼等が切實に中國を援助することを要求する。
 - 4、和平、民主を主張するスペイン、メキシコ、英、佛、米等所謂「民主政府」に中國に對する切實なる援助を要求する。
 - 5、國際聯盟を脱退し一切國內國際上に於ける不平等條約を否認する。
 - 6、民衆各人を訓練し就中外國勞工及び軍隊に接觸する中國の軍隊及び碼頭、海員、郵便機器工人と國際民衆との聯合戦線を進行する。
- ### 五、健全なる聯合戦線は抗戰の推動機である
- 生産人民の聯合戦線……これによつてこそ初めて抗日救國の難事業は完成し得る。
支那に於けるトロツキー派の行動については第四インターナショナルからの指示があるのである。

つて、第四インターナショナルの指導者トロツキーが一九三五年十二月支那に於けるこれらトロツキー派に與へた書翰は有名なものである。この書翰中には「日本の中國進路を阻礙せず」と云ふ文句があつたのであるが支那民衆の極度な奮激に逢つてトロツキー派はこれを否認したことがある。

現在トロツキー派の首腦者と云はるべきものは「抗日戰」の爆發後南京で出獄した陳獨秀の外王獨清、彭述之、劉仁靜、張慕陶、羅漢等であつて、出版物としては「鬭争」「火花」「大路」「戦旗」「抗流」「勝利的路」等がある。

元來トロツキー派なるものゝ内部は頗る統一なく、多くの派別があつて、これら首腦者の外にも他の一派として、葉青（任卓宣）柳寧（朱其華）鄭學稼（家禾）倪金生（王宜昌）金海如（丁逢昌）艾生（譚輔文）劉敏（王特夫）等がある。またこの外杜長之を首領とする小派があつたのであるが最近に至つて分裂し、現在では中國共產主義工人黨と云つてゐる。

第七章 更生「中國々民黨」

更生國民黨と呼ばれるものは重慶を本據として抗戰建國を絶叫しつゝある中國々民黨と對蹠的な和平建國を叫んでゐる日支事變の過程中に産出された一派であり、彼ら自身は孫中山の三民主義を眞に奉戴する所の正統派であるとなし、中國共產黨からは民族失敗主義者の一團と呼ばれてゐる所の一派である。

一、経緯

更生國民黨——この名稱は日本人間に於いて呼ばれてゐるもので、この一派自身は中國々民黨と稱してゐる——はいかにして成立したか、これは聖戰を遂行しつゝある我國人にして知らぬ者はないであらうが順序として簡単にこゝに記述してみやう。

先づ第一に更生國民黨は汪精衛によつて領導されてゐる所の一派であるが、汪精衛は所謂元老派知日派の一人であり、且つ蔣介石の先輩とも云はるべきであつて、彼は日支事變が勃發し、支那の形勢日に劣悪となるや從來から主張し來つた信念、即ち「日支戦争の結果中國は必ず敗れ、戰勝者たる日本も亦巨額の消耗によつて衰へ、東亞は永遠に歐米の束縛から脱却し得ず、特に中國は歐米の完全なる殖民地の地位に淪落する」と云ふことを愈よ確信したので、同憂の士周佛海梅思平等を糾合して秘かに和平による時局收拾のための活動に着手し、一九三八年三月事變が愈よ擴大するや部内青年文官層を糾合しつゝ同年十一月に至つて極秘に日本と連絡し積極的支援の約束を得るに至つたのである。これは更生國民黨の潜行運動時代である。

汪精衛は敗戦に伴つて南京より漢口へ、更らに重慶へと落ち延びたが、この間國民黨と合作した中共の勢力は政治的にも軍事的にも愈よ強大となり、彼らの空室清野の焦土戰術が愈よ激しくなるに及んで彼はこれを人民に對する暴行として大いにこれと論戦したが、遂に重慶勢力範圍内に於いては和平建國の唱導は壓迫され發展の望みはなきものと知つて脱出を決意するに至つた。

一九三八年十二月汪精衛は漸く重慶を脱出して佛印河内に至り、同十二月廿二日近衛首相の發

出した日支新關係調整に關する聲明に呼應して、同月廿九日右の聲明は中國をして亡國に至らしむるものではないと認めて反共和平の聲明を發表した。その後汪精衛は自己の傘下にある人々を漸次糾合して種々劃策しつゝあつたが、重慶の壓迫によつて腹心曾仲鳴が暗殺さるゝや一九三九年五月八日上海に來り此處を本據と定めた。

上海に到着後汪精衛は五月卅一日に周佛海、梅思平らを隨へて東京に赴き滞在廿日間に亘つて平沼首相、近衛樞相、陸海外各相らと和平問題について懇談し、日本の具體的東亞新秩序についての意見を聽いて之に同意し、先づその第一段階として新政府を樹立して以つて重慶に於ける國民黨政府と公然と對立することを決意した。

六月十八日日本を去つた汪精衛は次いで北京に至り臨時政府要人王克敏らと會見、次いで歸滬し維新政府要人梁鴻志らと各々中央政府樹立について懇談を重ねた。

斯くして汪派一派の和平運動は着々進展を見るに至つたもので、先づ我軍の占領區域内に於ける民衆に對して働きかける可く七月十日に至つて上海に於いて中華日報を復刊し、またラヂオを通じて活潑なる宣傳戦を展開するに至つた。またこれに續いて彼は廣東に赴いて華僑に對する諸工作をなし、再び八月十四日歸滬した。これらの期間に於ける彼の活動は渡日によつて決定した

新政府の樹立のための新準備であつたのである。

新政府樹立のためには彼等はその準備の一つとして支那の現段階中に於いて合法的な基礎と實力とを必要とする。然も中國々民黨が事變以來今日と雖も支那に於ける最大にして最大の實力を持つた政黨であり、國是として鼓吹した三民主義が尙民衆に魅力を失つてゐない現狀に於いて、自己の一派をもつて黨最高決議機關たる中國々民黨全國大會開催の職權を掌握する法的根據を待ち得る限り、これを自己のものとするのは最も有效なことである。故にこそ中國々民黨第六回全國代表大會は汪精衛領導の下に一九三九年八月廿八日より卅日まで上海に於いて開催されたのであつて、この結果滿場一致をもつて黨綱は修正され、その全權は汪派の握る所となつて、新たに内政外交の諸政策は汪派の所謂更生國民黨によつて確立されたのである。即ち中國々民黨第六次全国代表大會が招集され、この名に於いて抗戰建國は放棄され、これに替つて和平建國の方策が確立されたのである。

これに就いて大會秘書長梅思平は次の如く云つてゐる。

汪先生昨年十二月廿九日通電を發するや全國の民衆各地黨部はこれに響應し、各地黨員、海外華僑及び黨部並に各地民衆團體及び特別黨部ら紛々として支持の通電あり、重慶政府及び黨部當

局は既に共産黨の壓迫により自由にその私權を行使すること能はざるをもつて黨員一致して汪副總裁に對して速かに第六次全國代表大會を召集して國是を協議せんことを請求し、各地黨員より推選せる代表二百四十餘の參集を見た。依つて廿八日開會及び豫備會議を開き先づ汪副總裁を臨時主席に推し大會の主席團を選出し、大會秘書處の人选を追認して第六次全國代表大會議事規則を議決せる後、一同起立して二年以來の殉國將士同胞同志及び和平運動のために遭難せる同志に對して默禱を捧げて哀悼の意を表し、豫備會議を終了した。廿九日午前第一次大會を舉行し、主席團より周佛海氏を主席に推し黨務整理案を提案し、議決を見たがその要點は左の如くである。

- 一、民國廿八年一月一日以降本黨中央執行委員會及び監察委員會はいづれも職權を行使するの自由を失ひたるにより、凡ゆる一切の決議及び命令は完全に之を無効とする。
- 二、中央黨務機關は改組するまで一時これを解散する。
- 三、各級地方黨部及び特別黨部は改組するまで一時その活動を停止せしむ。
- 四、國民黨總章を修正して總裁制を廢し、中央執行委員會主席一人を設けて總章第四章所定の總理の職權を代行せしむ。
- 五、第五期中央執行委員、候補委員、中央監察委員及び候補委員は本期大會に於いて重任を

認むる外中央執行委員卅八名候補委員廿名、中央監察委員廿六名、候補委員十六名を新たに選出する。

六、重慶その他共産黨跋扈の各地に滞在しある中央執行監察委員及び候補委員に對し、速かに上海に參集して國事を協議するやう電請する。

七、中央各委員參集以前に於いては中央の各種會議は實際上行動の自由ありて確實に參會し得る者の過半数をもつて法定人員となす。

八、中央黨務機關、各地方黨部及び各特別黨部は中央執行委員會に於いて責を負つて改組し速かに工作を恢復する。

次いで代表八十餘人の提出せる左記の臨時動議二件を上程決議せり。

一、汪總裁は和平を提唱し、凡ゆる困難を排して奮闘し、國家の危急を挽回して國民の痛苦を救済するに付敬意を表するため主席團及び全體代表起立の上汪副總裁に向つて敬禮する。

二、黨務整理案の決議により汪兆銘同志を中央執行委員會主席に推薦すること。

右臨時動議は滿場一致をもつて通過せるが當時全代表萬雷の如き拍手をもつて之を迎へたり、同日午後第二次大會を開き汪主席、大會主席となり左記の如き重要提案を附議し、その決議をみ

たり。

二四四

- 一、本黨改綱修正案
- 二、反共を以つて本黨の基本政策となすの案
- 三、反日關係を根本的に調査し速かに國交を恢復するの案
- 四、中央執行委員會主席に授權し、中央執行委員を指名して黨外の人士と共同し、中央政治委員會を組織せしむる案
- 五、速かに國民大會を招集し憲政を實施する案。

次いで卅日午前第三次大會を開催し中央執行委員を選挙し且つ本期大會の宣言を決議し午後開會式を挙げたが何れも汪主席會議を主宰し、同四時無事閉會を告げた。今後國民黨はその歴史的使命に基き、更始一新全國民を領導して和平建國の運動に邁進して本大會決定の方針に副ひ着々これが實現を圖り、以つて前進の光明を開拓せんとするものである。

斯くて中國々民黨の政綱は更生國民黨によつて抗戰建國が和平建國に改變され重慶を中心とする一切の國民黨中央機關はその機能を停止されたのである。

汪精衛は六全大會終了後九月十九日より三日間に亘つて南京に於いて北京から南下した王克敏

及び南京にある梁鴻志らと會見して中央政治會議開催に關する具體的協議を遂げたが、この當時に至つて中國青年黨及び國家社會黨内に於ける一部の和平主義者とも連絡が成り、また沿海地方に於ける無黨無派たるべき各政客、實業家、教育家の支持を受けるやうになつたのであつた。

阿部内閣の成立に當り汪精衛は日本中央部と尙一層緊密なる連繫了解を得べく十月二日に至つて周佛海を東京に派遣した。この結果日本の新政府樹立支援の決意を再確認するに至つたので本年一月廿四日所謂青島會談を開催して臨時、維新政府首腦者及び蒙古代表と共に中央政治會議開催に關して再度協議を重ねた。

青島會談によつて政府の名稱、首都、國旗、中央政治會議機構、新政府樹立等に關する具體的辦法について重要協議を遂げた。汪精衛は更に國民黨既成政黨以外の合法政黨並びに一般有力政客資本家を糾合して全民的基礎の上に中央政府を樹立すべく二月十二日に至つて上海會談を開催し、周佛海より出席した國家社會黨の陸鼎撥、諸青來、中國青年黨の邵木公、無黨無派を標榜する趙正平、趙叔誰等に對して先づ日本側との外交折衝の經過を詳細に報告し、更に青島會談に於いて内定をみた國民政府の要綱、法統、機構、國旗、首都中央政治會議組織綱要條例、華北政務委員會組織、條令等の各事項について協議し、茲に漸く新政府を樹立すべき中央政治會議開催の

準備を完了したのである。

これを要するに更生國民黨なる名稱は日本人間に呼びならはされた名稱であつて、實際的な名義上から云へば重慶に於ける中國々民黨と何ら別個なものではなく、中國々民黨中の和平派であり正統派であると云ふことになるのであつて、その目的となる所は一、和平、二、反共、三、復黨、四、建國である。勿論これに對し重慶に於ける國民黨がこの一派の召集せる六中全會を認める筈もなく、これに連る面々に對しては漢奸と銘打つて既に逮捕令まで發してゐるのであり、重慶としてはその昔に黨籍を剝奪してゐるのである。

二、更生國民黨の主義主張

更生國民黨の信奉する所の主義が三民主義であることはこの一派自らが重慶に於ける中國々民黨は正派にあらずして昨年八月自らが開催した六中全會以後は自己をもつて正統派となす以上當然である。然し乍らそれならば何故に孫中山の三民主義を信奉する所のこの兩派が、一方では抗戰建國と謂ひ、他の一方では和平建國を謂ふのであらうか、斯くの如き極端なる對蹠的形勢の理由は何であらうか、これらは要するに所謂三民主義なるものが科學的根據の上に起つてゐない所

から各派(中共の三民主義の解釋はまたこの二派の解釋と異つてゐる)が自己の主張を貫徹するための正當なる據り所としてこれを自己の側に有利に解釋し得る間隙の存在するためである。

汪精衛は一九三九年十一月廿三日三民主義の理論と實際と題して次の如き言論を吐いたがこれはその間の事情をよく説明するものである。内容左の如くである。

一、三民主義の特質

孫先生の三民主義は博く歐米の許多の學說を採つてゐるが然しその本質は却つて中國固有の根本思想を根據として居り、歐米の種々な學說とはことごとく同じではない。例へば民族主義と歐米の國家主義とが同様でないが如くである。國家主義は狹隘であり排外的であるが民族主義は則ち中國固有の和平の思想上にあつて根本的に排外的ではないのである。

民權主義は歐米の天賦人權說やまた歐米の社會民主主義とは異つたものである。天賦人權說の主張する所は是個人の自由であるが、民權主義の主張する所は則ち全體の自由であり、個有の自由ではない。社會民主主義は經濟上に於ける着想であるが、民權主義は政治上に於ける着想であつて、これから民權主義の目的は即ち全民の政治である。

民主主義と社會主義共產主義は同様ではない。孫先生は民主主義第一講に於いて「民主主義は

即ち社會主義であり、又の名は共產主義であり即ちこれは大同主義である」と説いた。これは即ち一般的社會主義或ひは共產主義の終極的な目的について云つたものであつて、民生主義は即ちマルクスの共產主義である、と云つたものではない。孫先生はこの一句を説いた後續いて「この主義を明白ならしめんと欲するならば斷じて幾つかの定義を説くのではなく、必ず民生主義の講演を頭より終りに至るまで講演して初めて明白にこれを了解せしめ得るだらう。」と云つた。従つて第一講以下からは民生主義とマルクスの共產主義との同じからざる要點を頗る明白に詳細に指出し得るのである。マルクスの共產主義は階級闘争を主張し、孫先生の民生主義は則ち階級合作を主張するものであり、一個は暴力的方法を用ひ、一個は平和的方法を用ふるのであつて、この點完全に同様ではない。マルクスの共產主義は絶対に私有財産を廢止するが孫先生の民生主義は則ち計劃經濟の下に於いて一面に於いて國家資本を發達し、一面に於いて私人資本を護るのであり、この點も亦完全に同様でない。

これから見れば孫先生の三民主義、民族主義、民權主義、民生主義は自ら別の特質を持つてゐるものであつて、歐米の國家主義、社會民主主義、共產主義とは全然同一ではない。

二、何故孫先生の三民主義を提唱せねばならぬか

孫先生は何故三民主義を提唱したか、孫先生は三民主義は即ちこれ救國主義であると説いた。これについて云へば孫先生の三民主義は救國の目的のために、救國の立場から出發したものである。

歐米の殖民主義は中國を侵略し、中國を壓迫し、中國をして獨立生存を不可能ならしめ、中國をして自由平等を不可能ならしめてから既に百年を経た。三民主義は即ち全中國人民を呼び起して歐米の殖民主義的侵略に反對し、歐米殖民主義の壓迫に反抗して中國の獨立生存を爭取し、中國の自由平等を爭取するためのものである。孫先生が革命を提唱して以來畢生精力盡瘁したものは即ちこれであつた。

民國十三年以後孫先生は歐米殖民主義の外共產主義をみて之を世の患となした。故に民生主義の著述は共產主義をして中國に流毒するを不可能ならしめ、東亞に流毒するを不可能ならしめんとしたものである。民生主義は民國十三年中に講演したものであるが、惜しい哉これが完了しない内に孫先生は世を辭した。十三年は正に容共の時期であつて、孫先生は當時ソ聯と共產黨とを同様に見てゐなかつたのである。ソ聯に對してはこれを友邦となし共產主義に對しては則ちこれを國家社會禍亂の源となしたのである。故に民生主義の講演の裏に於いては特別にマルクスの共

産主義の錯誤を指出して一般青年をして民生主義を信奉せしめて共産主義を信奉せしめなかつたのである。容共の本位は即ち共産黨が組織を抛棄して中國々民黨の領導に服従し、共産主義を抛棄して三民主義を信奉せしめるにあつたのである。

十六年中國共産黨は背信棄義し逆跡は頗る明らかになつたので中國々民黨は清黨を決心して共産黨徒を清除し且つ進んで之を痛罵した。この決心は正に中國々民黨が終始三民主義を守つて共産黨と戦つたことを示すものである。この後反共精神は全國に普遍して今日に至るも渝らないのである。只蔣介石のみ西安事變によつて二十五年十二月二十五日、共産黨と密約を締結して孫先生の遺教に背反し、全黨の公意に違反して私かに容共を行つたのであるが、然し今でも蔣介石を除く外、凡そ中國々民黨の忠實なる同志は一人として永遠に三民主義を堅守して共産主義と戦はない者はないのである。

三、いかに三民主義を實行するか

三民主義の目的は救國にあり、救國に第一に要するものは中國をして歐米の經濟侵略、經濟壓迫上から解放せしめることである。人は常に中國は只これ一個の半殖民地であるとなすが然し孫先生は頗る痛心して中國はこれ一個の次殖民地であつて只半殖民地のみではない。殖民地は一個

の國家侵略と壓迫を受けるに過ぎないが、中國は却つて許多の國家の侵略と壓迫を受けてゐるとなしたのであつて、孫先生の革命提唱は則ち是中國をして次殖民地の地位からこれを自由平等となさねばならなかつたが故である。

いかにすればよく次殖民地の地位から解放され、中國が自由平等となるか、孫先生はこのために二個の方案を定めたが、その第一は中國が自ら努力すべきこと、第二は先進國たる日本と共同協力すべきことであつた。

孫先生生存の時、中日關係は良好ではなかつたが然し孫先生の中日關係に對する根本觀念は終始變らなかつた。孫先生は日本を批評することがあつた。彼の批評は總てこれ日本と中國が手を携へて友となることを希望したものばかりで中國が敵とならぬことを希望したのである。これは民族主義の講演中に見ることが出來、またこの外民族解放と關係ある遺教裡にことごとく見ることが出來る。

孫先生は説いた。中國と日本との關係は實に存亡と安危の双方に關聯するものである、と。この一句は極めて深い意味を持つて居り、これはありきたりの説ではない。西國の存亡安危、中日合作は中國に有利、且つ日本に有利、東亞に有利なるのみならず、合作の原則下に於いて中國と

日本が外交方針を一致し、國防方針を一致したならば、彼等の間には當然再び折衝なく、更に携手共進して以て錯綜複雑なる國際局勢に應對し得るであらう。その他の國家に對しては聯合すべき二個の國家が一つとなつてこれと友となり、對抗すべきは二個の國家が一つとなつてこれと敵すべきであり、只かくしてのみよく東亞永久の和平は堅定されるのであり、只かくしてのみ大亞細亞主義の實現が謀り得るのである。

中國は今日吾に日本と東亞の責任を分擔せねばならぬのみならず且つ有する力量をもつてこの責任を分擔せねばならぬ。もし果してよく中國が歐米次殖民地の地位から解放され得ず、もし果して中國が自由平等に達し得なかつたならば、中國は東亞を安定し東亞を建設する責任を分擔することが出来ないのである。明治維新によつて日本は發奮自強して手本を示したが、中國を見れば現在民族獨立のために苦闘中である。中國に於いては自身は東亞の責任分擔を考へてゐるが、このためにはもとより自由平等の國家となることに努力せねばならない。中國が自由平等の國家となるために必要なものは第一には民族主義であり、第二には民權主義であり、第三には民生主義である。これを合して云へば三民主義であり、この精神は不分割的なものである。

四、三民主義と和平運動

三民主義と最近の和平運動について云つてみよう。この幾年來中日關係は日に悪化をたどつてゐるが、この悪化を辿るといふことのために中國は抗日し、抗日のために關係は愈よ悪化した。斯くして循環やまず止るところを知らなかつたのであるが、昨年十二月二十二日に至つて日本近衛首相大聲明を發表するに及んで初めて中日關係は一個の轉機を得た。

近衛聲明の提出した原則は、一つはこれ善隣友好、一つはこれ共同防共、一つはこれ經濟提携であつた。これらは大亞細亞主義の理想であつて、則ちこれは三民主義の根本精神である。云ひ替へれば目前の中日和平運動の基本原則と三民主義の根本精神は一致吻合してゐるものである。

以上の理論から實行をみれば予は過去數年中日關係の悪化は外交上、國防上に於いて彼等の方針は道を背にして居り各々は只よく技節にいさゝかの努力を盡して大局に補ふ所なかつたものであると感覺するものである。予は深く今次和平の運動は中日兩國がよく根本上に起ちて中日關係を劃して新たな時代となし、東亞に新たな局面を創造するために平等合作の精神を以て兩國一致の外交方針、國防方針を確定せんことを深く希望する。方針の一致は則ち善隣友好に到達すべく、共同防共に到達すべく、經濟提携も亦容易に着手し得るであらう。經濟提携について云へば、ある人は悲觀的論調を抱いてゐるが、予は則ち中日兩國が眞によく誠意をもつて、相處し平

等相處したならば經濟提携は全くその前進樂觀すべきものであると考へる。中國に就いて云へば今後の經濟建設は民生主義をもつて中心となし、民生主義の具體的實行は孫先生の遺業計畫を根據とし、而してその最大の目的とする所は一はこれ中國の民族資本の發達、一はこれ買辦資本の歐米に對する依頼の掃除である。即ち中日關係から云へば經濟提携は正に日本の協力をもつて中國の民族資本を發達し、買辦資本の歐米に對する依頼を掃除し得べきであり、同時に中日兩國をして經濟上平等合作、自由發展の機會あらしめねばならない。ある中國方面の人々は經濟提携の條件の上に於いては中國の民族資本は發展し得ないと疑懼してゐるが、これは誤りであり、また日本方面に於いて或る人は中國民族資本の發達は日本に不利であるとすものであるが、これも亦誤りである。我らは必らず東亞は歐米資本勢力の支配下にあつては兩國の經濟力量を聯合しなかつたなら決して之と對抗することは出来ないといふことを知らねばならない。然して中國の民族資本の一日の不發達は即ち中國に一日日本と協助して歐米と對抗する力量がないことになるのであつて、經濟提携は更らに問題にならないのである。一層明白に全く民生主義の實業計畫をすることは一面に於いて民族資本を發達させ、一面に於いて買辦資本の歐米に對する依頼をば掃除するものであり、中日の經濟提携はこれ中國に有利であり、日本に有利であり、整個の東亞に有利であることが明瞭となるであらう。

三民主義を基礎とする更生國民黨の主張について、これを新政府樹立、換言すれば國民政府の法統を繼いで南京に還都する日の目睫に迫つた本年三月十三日發せられた宣言によつてこれをみやう。

中日兩國は如何なる方面よりするも宜しく提携協力して進み共に兩國前途の發展を圖るべきなり中日兩國はアジア民族獨立運動の原動力たるべしとは中華民國建設の創業に當つた孫先生の言であり同胞同志共に玩味すべき語である。不幸にして中日兩國の關係は數年以來これが調整を失ひ、遂に戰禍勃發して擾亂年を重ねるに至つたが一昨年十二月三日日本近衛内閣は聲明を發表して日本の中國に望む所は東亞新秩序建設の任務を分擔することであると述べ且つラヂオに依つてその趣旨を敷衍して、日本の眞に希望するところのものは中國の滅亡に非ずして中國の興隆にあり、中國の征服にあらずして、中國の協力にありと云ひ、又實に中國の民族的熱情を認識し、中國の獨立國家としての完成を必要とすること日本程切實なるものなしと云ひ、次いで十二月二十三日發表せる聲明に於いては中國に求むるものとして善隣友好、共同防共及經濟提携を列擧し、且つ日本は中國の主權を尊重するは固より、進んで中國の獨立完成のために必要とする治外

法權の撤廢をなし、且つ租界の返還に對して積極的なる考慮を拂ふに吝ならざる旨を述べた。

日本政府より右の聲明があつた後、中國側に於いては明らかに抗戰の必要なきこと、和平恢復の必要なことを悟り、更に中日兩國は單に目前の戰禍を終熄するのみをもつて満足せず、進んで根本的に過去に於ける紛争の原因を除去し、新に將來の親善關係を樹立すべきものなることを痛感せり。こゝに於いて和平運動は漸次全國に普及し昨年八月の國民黨第六次全國代表大會の宣言中に於いて自今抗戰建國のローガンを和平建國に改めること並に反共をもつて和平建國上必須の工作となすべきことを鄭重に宣布すると共に個人獨裁が國家を誤り憲政の實施が最早や遷延を許さざる實情にあることに鑑み成るべく速かに訓政を終結せしめて憲政を開始し、第五次全國代表大會に於て議決せる所を實行に移すべき旨をまた鄭重に宣布した。

數ヶ月來日本朝野と誠意を披歴し善隣友好、共同防共及び經濟提携の原則に基き、これが具體化を圖り努めて双方何れもその利益を享けんことを期し、一方國內の各既成政權、政黨及賢能達誠の士と心を盡して時局收拾の辦法を討議した結果、一致せる決意の下に共同して努力することとなれり。茲に中央政治會議を組織し之に基き中央政府の誕生を見るに至れり。自今人民は國を擧げて、統一あり且つ有力なるこの中央政府の指導下にて外に對しては國交を調整し、内に對

しては憲政を實施して年來の紛争と戰禍とを掃除し以つて和平と幸福とに満てる新天地を現出せしむべきである。對内問題たる憲政の實施については吾人は既に時局に適應せる政綱政策を樹て最短期間にその使命を達成せんことを期待して居り、對外問題たる國交調整に付ては吾人の談合成れる各種の具體方案を全部公開することは固よりこれを他日に期せざるを得ないが、右方案が決して近衛聲明の範圍を逸脱したものでなく、且つ決してその原則に牴觸するものではない事は吾人の敢て責任を以つて國民に保證し得る所である。即ち右は中國の獨立生存に危害を及ぼすことなく、又第三國の中國に於ける正當なる權利に對しても損害を與ふる事はなく、寧ろ中國の和平恢復により之を保障しその發達を遂ぐるを得さしめるのである。況や中國の和平恢復を見たる後は、日本と經濟提携をなす以外同時に建國方略の實業計畫に基き各國の技術及び資本を容れて中國の建設を完成し東亞の繁榮を圖らんとするものに於いてをやである。……

斯くの如く和平運動はたゞに中日の利益のみではなく、亦實に世界各國の利益である。翻つて國民に云はんと欲する所は吾人の和平運動が宜しく卑近なる方面と遠大なる方面とより同時にこれを探究すべきものであると云ふ點である。事變以來北京の都、南京の新都等相繼いで守りを失ひ、平津、上海、青島の三特別市、綏遠、寧哈爾、河北、山東、山西、河南、江蘇、浙江、安徽、

江西、湖北、廣東、廣西等、十三省逐次陷落し、將士の死するもの數百萬、人民の直接間接亂離に死するもの數千萬人、これ實に宇宙の奇變禹域の大厄にして、明朝滅亡以來未曾有の災禍である。抗戰今に至り二年有半、その失ひたる所は一ヶ處と雖も未だ恢復されたるを聞かず。徒らに遺棄されし人民をして日に奈落の底に沈淪せしめるのである。國民政府及び中國々民黨同人の罪たるや極めて深く且つ重い。假令粉骨碎身すると雖も國家に又人民に對するに足りない。苟も危亡猶救ふべきものがあるならば身を挺し過をひし、日本と停戰講和して受諾に堪へる條件を受納して以つて未だ消盡せざる國力を保存し、敗殘の局面を收拾し、改めてその復興を圖るべきである。これ實に國民政府並びに中國々民黨同人の當然負ふべき責任であつて、斷じて權勢を挾んで民意を壓迫し日々、抗戰到底、最後の勝利等の言を弄し、自らを欺き人を欺き國土をして愈よ縮少せしめ、國力をして愈よ消耗せしめ遂に救ふ可からざるに至らしむべきではない。これ卑近なる方面よりみたる所である。遠大な方面よりすれば今次の和平運動は單なる自前の戦争を終熄せしむるに止まらず、深く戦争の原因を探究し、過去に於ける禍根を除去し新たに將來の目標を定め、中日兩國をして共に共存共榮の大道に向つて手を携へて前進せしむべきである。……

中日兩國は東亞の柱石にして兩國相安んずれば東亞の和平は保障され世界の和平またその基礎

を建つるに至るであらう。故に卑近なる方面から云へば即ち國家民族の將に亡びんとするを救はんがため、吾人は辱を忍び、重きを負ひ和平運動に従事しなければならない。遠大な方面から云へば即ち中國及び東亞の復興を圖らんがためには吾人は特に積極的な努力を傾けて和平運動に従事すべきである。……

精衛職を國民政府に奉じ、中國々民黨の一人として過去心力を盡したるも遂に不幸なる戦争を防止するを得ず、戦争勃發するに及んでまたこれを挽回することを得ず、消然身を撫して省み、晝夜を分つなき有様であつた。客年來忠誠を盡して重慶の同人に向つて請願したるも尙未だ聽納を得ない。然し乍ら精衛默察するに今日全國の人民總て和平を希望し居ることは既に疑ふの餘地なく、唯その惑ふ所は和平のよく實現し得るや否やにある。仍つて固陋をとらず、國民政府及び中國々民黨同人を糾合し、各既成政權、政黨及び賢能達識の士と聯絡し同心協力、以て和平運動の責任を負ひ、努めて全國人民の希望する和平を一々實現せんとするに至つたのである。

今や中央政治會議の組織につき協議検討して意見の一致を見、その成立近きにあるをもつてここに和平運動の眞意と和平方案の眞相とを明かにして之を同胞に告ぐる次第である。今後中央政府は必らずや誠意を盡し全力をあげて和平方案の實現を圖り以て、和平運動の成功を期するもの

二六〇
である。尙重慶側もその行懸りを一擲して直ちに停戦し、共に和平を圖り、和平方案をして一層普遍的且つ迅速に實現せしめんことを望んでやまぬものである。

第八章 中國青年黨及び更生國家社會黨

更生中國青年黨、更生中國々家社會黨、この名稱によつてこの二黨を呼んでゐる者はどこにもない。これらは唯從來の中國青年黨、中國々家社會黨、との區別を行ふために呼ぶ假稱に過ぎない。

中國青年黨及び中國々家社會黨の成立經過、主義、主張、領袖等は前項に於いて既に述べたが、更生中國青年黨、更生中國々家社會黨とはこの二黨中の一部人員が汪精衛の主張する和平建國運動に共鳴し重慶の抗日勢力から脱して之に加つたものが更生國民黨と同じく自己の派を正派としてその黨名稱を襲つてゐるものを云ふのである。この派とは即ち中國青年黨の張英華、趙毓松、中國々家社會黨の李祖虞、諸青來等を中心とするものを云ふのである。

一、經緯

して能く勝を制するの見透しあり、或は勝を制するの見透しなくとも尠くとも不敗の地位に立ち、或は敗るゝにしても大いに敗し、屢々敗るゝことがなければ國民は戦争に疑を懐き戦争に反対するに至らぬであらう。もし然らずして戦争の結果師を喪ひ、地を失ひ、國家民族の生命岌々として危く其の採れる手段がその希望せる目的と反するに至れば抗戦を繼續することは國家民族を滅亡せしむる虞れあることゝなる。假令抗戦が既定の國策であるとしても改めて之に考慮を加へなければならぬ。中日戦争勃發の初め、一般の人々はソ聯が遅くも半年以内には参戦するであらうと期待した。が現に中日戦争は既に丸三年二月を費したに拘らずソ聯の中途参戦の希望は畫餅に歸したるのみならず、ソ聯は西方に向つて發展せんがため向を變へて日本と妥協し和平の陣營から一躍して侵略の陣營に入らざるを得ない破目に立ち至つた。これに次いで一般の人々が切實に希望したのは英米佛の聯合による日本刺戟であつたがこれまた當初の豫想を裏切り第二次歐洲大戦勃發以後英佛は全力を擧げて獨逸に對抗する必要上勢ひ東洋に於いて日本に讓歩せざる能はざるに至つた。支那駐屯英國軍隊の引揚、天津日銀問題の妥協等總てその事實の現れである。かく聯合して日本を制裁するが如きは到底問題とならない。

抗戦を續ければ最後の勝利は必らず我にあり、和平を云ふものは漢奸であり、妥協すると云ふ

ことは即降服であると云ふ臺詞は共產黨が懸命に叫んでゐるものである。共產黨が斯くばかり抗戦に熱中するのは二つの重大なる原因がある。その第一は中國の抗戦を利用して日本を牽制し、以てソ聯の東顧の憂を除き、第二には長期抗戦の機會に乗じて自己の基礎を鞏固にし赤軍の實力を擴大し戦争最後の段階に於いて國民黨の實力を消耗せしめその組織の動搖するを俟つて代らんとする意圖に出るものである。共產黨は中國が單獨の力を以つて抗戦を繼續すればその結果は必ず失敗に終り成功する見込みのないことを十分知悉してゐるのである。而も彼らは極めて巧妙にスターリンの失敗主義を運用し、中國抗戦の失敗を利用して彼等の成功を促進しつゝある。かゝる國際陰謀に對しては我が國民は嚴重にこれを監視せねばならぬ。

以上分析した所に基いて吾々は二つの結果に到達することが出来る。第一、國際環境は日本に利にして我に不利であり、單獨抗戦は失敗するのみで成功する可能はなきが故に和するに非ざれば不可なること、第二、共產黨の陰謀は兇暴惡辣にして抗戦を續くる時は犠牲となるのは中國であり、成功するのはソ聯であるから和するに非ざれば不可なること、之である。吾人は深思熟慮の結果この危急に瀕せる中國を救ふため速かに戦争を停止し和平を實現する以外に途なしと認め、茲に毅然として今回の和平運動に参加し、我が從來の反共救國の主張を續けることゝなつた

・兩黨の從來からの態度改變を説明するには次項に記述する一九四〇年三月十四日に發表した宣言を見れば判明するが、今これが経緯について記述してみればこうである。

兩黨は上海方面に迄日支事變の戦火が擴大した當時に於いても尙南京の國民政府の抗戦陣營中にあつたのであるが、所謂抗戦到底に對して漸次懷疑的となり、南京政府が重慶に敗退して中國共產黨の壓迫が愈々増大するに至るや、この方針は絶対に中國に對して利する所にあらずと覺り、汪精衛と前後して重慶より脱出して上海を中心として和平工作を行ひ、汪精衛が和平通電を發するに至つてからは俄然これと手を握つて和平建國運動に参加したのである。工作として具體的なものは、國家社會黨では昨年十月幹部會談を上海に開いた後、これに就いて地區會議を開催して和平實施方針を決定すると共に黨務特別委員會を組織し、中國青年黨では本年一月に至つて大會を舉行して同様和平方針を決定すると共に中央政治行動委員會を組織すると共に兩黨日と同じうして宣言を發表したのである。尙現在續いて來るべき新中央政府の樹立に對して之に参加すべく準備を行ひつゝあるのである。

二、主義、主張及び領袖

更生中國青年黨、更生中國々家社會黨の主義そのものは何ら從來の中國青年黨、中國國家社會

黨のそれと異つてゐないが然しその主義を基礎とする主張に至つては各異つてゐる。その極端な例は即ち國社黨に於いては昨年十月以前迄の抗戦建國の主張を和平建國にと正に百八十度の轉向をなし、中國青年黨に於いてはこれと同じく本年一月以前の抗戦建國を和平建國に改めたことである。これについて更生國家社會黨では本年三月十四日の宣言に於いて、抗戦せざるべからざる場合に於いては抗戦は即ち國家保衛の手段なるが、和平の途を採るべき場合に於いては和平を用ひ國家の存亡を圖るべきである。その見解の異なる所あるもその民族國家のためを慮る點に於いては即ち二つなし、とその態度改變について説明を加へ、中國青年黨また本年三月十四日の宣言に於いて、吾人は深思熟慮の結果この危險に傾せる中國を救ふには速かに戰爭を停止し和平を實現する以外に途なしと認め、茲に毅然として今回の和平運動に参加し、我が從來の反共救國の主張を續けることゝなつたのである、と説明してゐる。尙附記すればこの宣言に對し重慶にある中國青年黨及び中國々家社會黨はこれらに對して全面的否認聲明を發出して、本黨は依然抗戦建國に向つて進むものである、と云つてゐる。

三、中國青年黨中央政治行動委員會宣言(要旨)

戰爭も和平も凡ては國家の獨立を保障するための手段であつてその目的ではない。若し戰爭に

して能く勝を制するの見透しあり、或は勝を制するの見透しなくとも不敗の地位に立ち、或は敗るゝにしても大いに敗し、屢々敗るゝことがなければ國民は戦争に疑を懐き戦争に反対するに至らぬであらう。もし然らずして戦争の結果師を喪ひ、地を失ひ、國家民族の生命岌々として危く其の採れる手段がその希望せる目的と反するに至れば抗戦を繼續することは國家民族を滅亡せしむる虞れあることとなる。假令抗戦が既定の國策であるとしても改めて之に考慮を加へなければならぬ。中日戦争勃發の初め、一般の人々はソ聯が遅くも半年以内には参戦するであらうと期待した。が現に中日戦争は既に九三年二月を費したに拘らずソ聯の中途参戦の希望は畫餅に歸したるのみならず、ソ聯は西方に向つて發展せんがため向を變へて日本と妥協し和平の陣營から一躍して侵略の陣營に入らざるを得ない破目に立ち至つた。これに次いで一般の人々が切實に希望したのは英米佛の聯合による日本刺戟であつたがこれもまた當初の豫想を裏切り第二次歐洲大戰勃發以後英佛は全力を擧げて獨逸に對抗する必要上勢ひ東洋に於いて日本に讓歩せざる能はざるに至つた。支那駐屯英國軍隊の引揚、天津日銀問題の妥協等總てその事實の現れである。かく聯合して日本を制裁するが如きは到底問題とならない。

抗戦を續ければ最後の勝利は必らず我にあり、和平を云ふものは漢奸であり、妥協すると云ふ

ことは即降服であると云ふ臺詞は共產黨が懸命に叫んでゐるものである。共產黨が斯くばかり抗戦に熱中するのは二つの重大なる原因がある。その第一は中國の抗戦を利用して日本を牽制し、以てソ聯の東顧の憂を除き、第二には長期抗戦の機會に乗じて自己の基礎を鞏固にし赤軍の實力を擴大し戦争最後の段階に於いて國民黨の實力を消耗せしめその組織の動搖するを俟つて代らんとする意圖に出るものである。共產黨は中國が單獨の力を以つて抗戦を繼續すればその結果は必らず失敗に終り成功する見込みのないことを十分知悉してゐるのである。而も彼らは極めて巧妙にスターリンの失敗主義を運用し、中國抗戦の失敗を利用して彼等の成功を促進しつゝある。かゝる國際陰謀に對しては我が國民は嚴重にこれを監視せねばならぬ。

以上分析した所に基いて吾々は二つの結果に到達することが出来る。第一、國際環境は日本に利にして我に不利であり、單獨抗戦は失敗するのみで成功する可能はなきが故に和するに非ざれば不可なること、第二、共產黨の陰謀は兇暴惡辣にして抗戦を續くる時は犠牲となるのは中國であり、成功するのはソ聯であるから和するに非ざれば不可なること、之である。吾人は深思熟慮の結果この危急に瀕せる中國を救ふため速かに戦争を停止し和平を實現する以外に途なしと認め、茲に毅然として今回の和平運動に参加し、我が從來の反共救國の主張を續けることとなつた

のである。

吾人が和平運動に参加せるはその目的國家の獨立共存を保全せんとするにある。汪先生は既に今回の和平方案が決して近衛聲明の範圍を逸脱せるものに非ず、且つ決してその原則に牴觸せず中國の獨立生存に危害を及ぼす事なきは吾人の敢て責任をもつて國民に保障し得る所なりと鄭重に宣言せられてゐる。吾人はこれに基いて邁進すれば必ず國家の危急を救ひ復興の基礎を保留し得ることを確信するものである。

四、中國々家社會黨政務特別委員會宣言(要旨)

我國の全面的抗戰開始されて茲に三載、失地の廣くして犠牲の重きことは空前の事である。然して國人はこれに對し尙主和と主戰とに分れて各々協同せず、何れもその見る所に從つて歸する所なき状態である。が實は右兩者は假令その方式は之を異にするも結局途を別にして同一地點に歸着せんとするものに過ぎず則ち絶対に相反するものであると云ふのではないのである。抗戰せざる可からざる場合に於いては抗戰は即ち國家保衛の手段であるが、和平の途を採るべき場合に於いては和平は即ち國家の存立を圖る所以である。見解の各々異なる所があつてもその民族國家のためを慮る點に於いては二つはない。國事を圖りその重きに任ずるものは周く諮り、博く訪ねて

時に圖つて宜きを制し以て適當なる解決を計るを貴しとする。

一昨年十一月三日及び十二月二十二日日本の首相近衛が獨立と領土との完整を尊重すべき旨明らかになる聲明により汪先生は卒然として十二月廿八日通電を發して之に響應せる所……一般人民の和平に傾くものは實に時と共に増加し來つた。凡そ和平を渴望せる民衆は何れも滿腔の熱情をもつてこの舉に賛同した。この一髮千鈞の際に當り中央政府を組織することは特に須臾も緩にすべからざる所である。

本黨同人は汪先生の熱烈國のために盡し犠牲を辭せざるに對し深く感奮し聊か共同努力して以つてその成功を助けんことを誓ふものである。

尙兩黨領袖については元來弱小黨の内から分烈してその正統派をもつて任じてゐるのであるからその數は少く、領袖として新政府中央の席に坐するものとして目されるものには中國青年黨に張英華、趙毓松、中國々家社會黨に諸青來、李祖虞らがあり、この外にはこれに次ぐものとして青年黨に邵木公、國社黨に陸鼎撥らがある。

印 檢 者 著

版 社 活 生



昭和十六年三月五日 印刷
昭和十六年三月十日 發行

現代支那の政黨
定價壹圓四〇錢

著 者

日 森 虎 雄

發 行 者

東京市神田區鍛冶町三ノ六
鐵 村 大 二

印 刷 者

東京市四谷區本村町四番地
鈴 木 芳 太 郎

印 刷 所

東京市四谷區本村町四番地
玄 眞 社 印 刷 所

發 行 所

東京市神田區鍛冶町
三丁目六番地

株 式 會 社

生 活 社

振替東京四三三〇一番
電話(神田)二七七九番

製本・石井製本所



東亞叢書

支那社會經濟論 尾崎秀實著

(定價一圓四〇錢
〒一四錢)

支那基督教史 比屋根安定著

(定價一圓八十錢
〒一四錢)

支那共產黨史(上・下) 大塚令三著

(各價一圓二〇錢
〒一四錢)

現代支那の政黨 日森虎雄著

(定價一圓四〇錢
〒一四錢)

支那合作社政策の諸問題

梁思達
黃巖興編著
李文伯

岸本英太郎
上松一光譯

產業資本と支那農民

陳翰笙著 水田博譯

(定價一圓二〇錢
〒一四錢)



